

# 関ヶ谷市民の森愛護会

(平成 19 年度第4回役員会の報告等)

平成 19 年 1 1 月 7 日

## 我流ボケ予防

60年も昔、肝心の授業内容は何も思い出せないが、何故か数学の時間に先生のいった言葉を覚えている。「君たちはニュートンがりんごが木から落ちるのを見て万有引力の法則を発見したと教わっただろう。そんな安易な教育をしたから日本は戦争に負けたのだ。ニュートンは一心不乱に考え込んでいたので、村人はみんな見て知っていたのに、彼は目の前に落ちたりんごに気が付かなかったのだ。」

しかし、私はこの逸話の作者の真意は違うような気がしている。村人もニュートンもりんごの落ちるのは見えていた。何千年も何億もの人々が物は下に落ちることは知っていた。しかし、誰もが“なぜ”とはいわなかったのに、ニュートンだけが“なぜ”と問うたことをあのアナロジーは教えていると信じている。更に凄いことは、ニュートンはりんごを落とす力も、地球と太陽の間にはたらく力も同じ種類の力であると見抜いた点だ。

戦後、日本は欧米からKnow how (作り方) を買って成長してきた。しかもKnow howで終わらせずに、Know why (なぜ、どうして) と問題提起をしてその解決に取り組んできた。石野真子がまだ初々しい乙女であった頃、トヨタのCMで“なぜなんだろう。どうしてなんだろう。”というセリフのものがあつたが、日本が世界第二の経済大国になった原動力は正にここにあつたのではなからうか。我流ボケ予防の話にしては、ちょっと大袈裟な

話運びになって申し訳ない。要はボケ予防にもKnow whyが必要ということをお願いしたかった。

脳を鍛える大人のDSトレーニング（東北大学川島隆太教授監修）が任天堂から発売され、大ヒットしている。風評によると川島教授には、15億円収入があったそうだ。要は「使わないと衰える」ということを逆手に取ってハードに色々なソフトを作って抱き合わせ販売している。“あなたの「脳」は何歳ですか”という副題までついているので、つい購買欲を掻くのだろう。

愛護会員の森さんが、竹炭を活用して消臭作用を持った「臭い袋」を商品化してくれた。お陰で、「竹炭」、「竹酢液」について第3番目の顔が誕生した。いってみれば、ここまでがKnow howということになる。家庭で身近な炭も燃料以外の使い方をするようになったのはここ20年。研究はまだ始まったばかり。炭にも種類があり、大きく分けて木炭や竹炭の「黒炭」と黒炭よりは高温で作られ、備長炭などが有名な「白炭」のふたつ。実は、このふたつの炭は、脱臭に関しては得手不得手がある。なぜ？それは炭は多孔質で、その穴の表面は「黒炭」は酸性のものが多く、「白炭」はアルカリ性のものが多い。臭いを消すということは、中和すること。トイレの臭いの主成分はアンモニアだからアルカリ性の臭いなので、これを消すためには「黒炭」を置くことが最適となる。実際には両方を混ぜ、使用場所により黒炭、白炭の量を調整しているようである。色々活用するためには、どうしてもKnow whyは避けて通れない。調べるためには、頭も多少は使うでしょう。しかも私たちは、ボランティア。

我流ボケ予防を端的に言えば、“面白そうに乗ってみる。出来るかもでやってみる。知恵寄せ合ってアソベンチャー”となる。

余談になるが、ニュートンのりんごの木は1814年に枯れたが、それ以前に接ぎ木で殖やした木が、英国国立物理学研究所など世界数カ所に植えられている。日本では、昭和37年2粒の種子が同研究所から贈られたが育成に失敗、昭和39年同研究所長サザランド卿から東京大学の柴田教授に贈られた接ぎ木苗が小石川植物園で成功した。偉大なニュートンにあやかろうと、りんごが落ちたので有名な木の子孫に合格祈願に来る人が後を絶たないそうだ。「藁をも掴む」心境は分かるが、その暇があれば、勉強した方がいいのではないでしょうか。

(鈴木)

## [I] 今後の活動予定

- 1 1月17日(土) 公式活動(階段補修・花壇植付等+開園記念行事)  
1 2月 2日(日) 公式活動(階段補修、炭焼き、腐葉土囲移設等)  
1 5日(土) 公式活動(階段補修、炭焼窯開き、倒竹伐採等)  
2 3日(日) 臨時活動(門松作り+忘年会)  
1 月 6日(日) 公式活動(階段補修、炭焼き、竹垣補修等)

(注) 公式活動日は、原則、各月の「第一日曜日」と「第三土曜日」とします。

## [II] 今後のパトロール予定

1 1月11日(日)	宮本 英利	宮本 久美
1 8日(日)	日高 清之	中村 清一
2 5日(日)	野路 美智恵	森 記美江
1 2月 2日(日)	入部 信寿	吉川 征治
9日(日)	戸次 鎮治	戸次 明子
1 6日(日)	橋本 順二	橋本 弘子
2 3日(日)	平野 利治	星野 洋
3 0日(日)	池田 陽一	飯野 光吉
1 月 6日(日)	加藤 文明	大木 通宏
1 3日(日)	小倉 征子	齋藤 和子
2 0日(日)	佐野 庄次	古賀 卓郎
2 7日(日)	門田 教与	立川 成江

(注) パトロールは、「巡回チェックリスト」に従って実施し、結果の「チェックリスト」は徳岡総務担当役員宛、電子メール( )又はFAX( )にてご報告下さい。なお、二人の巡回者の都合が合致しない場合は、予定日近辺で両者都合の良い日をお打合せの上実施して下さい。

### [Ⅲ] 各事業およびクラブの活動状況等

#### (1) 植林事業

市の財団「横浜市緑の協会」から、キンモクセイ、アジサイ、ハナミズキ、オオムラサキ、サツキ及びコブシの6種56本の苗木を寄贈戴き、11月4日の活動日にコブシ以外の52本の植樹を実施した。植樹場所は、「いこいの広場」周辺と真鍋監事宅前の二ヶ所となった。コブシ4本も近く入荷の予定。

#### (2) ホタル復活事業

イ. 今期は、諸般の事情により、幼虫入手が必ずしも充分でなかった。「ヘイケボタル」については、戸次、橋本、松本会員を含む6名の方々に総数300頭の幼虫を飼育戴いているほか、今年「ほたるの里」で放流羽化したものの相当数が来年自然羽化することを期待している。なお、この自然羽化が不十分な場合は、次の幼虫飼育の規模を昨年並み（二千頭）以上に戻すこととする。また、「ゲンジボタル」の幼虫入手については、引き続き吉田相談役にご尽力戴いている。

ロ. 「ほたるの里」の関東学院サイドに設置された幼虫飼育用のログハウスは、行政からの要請もあり、来年度以降、せせらぎの川下付近、「いこいの広場」の北西隅に移設する。

#### (3) 炭焼事業

イ. 11月の第一活動日に予定していた「炭焼き」は、都合により、12月の第一活動日(2日の日曜)の午前7時からに延期された。従って、その「窯開き」は12月15日の第二活動日になる。

ロ. 来年1月6日(日)も奇数月の第一活動日ゆえに、12月に引き続き、午前7時から炭焼きを実施する。正月早々の早朝ではあるが、有志のご協力宜しくお願いします。

#### (4) 園芸クラブ

イ. 「いこいの広場」の花壇を前回までの二活動日に亘り整備補修し、次回のパンジー植付けに備えた。

ハ. 次回11月17日(土)の活動日には、6名のクラブ員が発芽させその後日高温室で開花させたパンジーを上記花壇に移植する。また、日高さんから寄贈戴く「葉牡丹」の植付けも同時に行なう。クラブ員のご協力宜しくお願いします。

#### (5) 木工クラブ

歳末恒例の「門松作り」を下記要領で実施する。来年の門松は是非自らのお手製で!

日時： 平成19年12月23日(日)午前9時より(雨天の場合は別途電話連絡)

場所： 「炭焼き広場」にて

(注) 松、縄等の材料は用意するが、鋏、ペンチ等は使い慣れた道具を持参下さい。

## (6) その他

イ. この前の台風で「すぎこだちの道」のいこいの広場側入口部に崖崩れが見られたため、市の方で、取敢えずの応急処置として、12月末までを目途に幅20m×高8mの落石防護ネットを掛けてくれることとなった。いずれは本格的な法面対策が行われることとなろう。

ロ. かねて危険が指摘されていた「追い越し坂」と「すぎこだちの道」の急な階段の踏み代等の補修が10月20日の活動日から緒に着いた。今後12月一杯を目途に完了予定。

ハ. 枯葉が増える来年2月に向け、腐葉土囲を改良するとともに、より適切な位置（日の当たらない場所）への移設を考慮する。

### [IV] 開園四周年記念行事

当愛護会も、この10月で開園以来満4歳を迎え、順調な進展を続けています。その成果を喜び、さらに今後の夢を語り合うため、「開園四周年記念」を祝して、下記要領にて、記念行事を実施します。多数の参加を期待します。

日時： 平成19年11月17日（土）午後12時より（活動終了直後）

（注）雨天の場合は、次回活動日の12月2日（日）に順延する

場所： 「いこいの広場」にて

行事： バーベキューパーティー

### [V] 愛護会忘年会.

本年最後の活動日となる12月23日（日）の「門松作り」の直後、当愛護会の公式忘年会を、下記要領にて、実施します。多数の参加を期待します。なお、この忘年会の他、有志による非公式忘年会が別途企画されている模様。

日時： 平成19年12月23日（日）午後12時より（門松作り終了直後）

場所： 「炭焼き広場」にて（雨天の場合は別途電話連絡）

行事： ビヤパーティー（通常的茶話会＋アルファ）

### [VI] 次回定例役員会

次回定例役員会は、平成20年1月5日（土）午後7時から、「山の手自治会館」において開催されます。万障お繰り合わせのうえ出席下さい。

関ヶ谷市民の森愛護会会長 鈴木 勲

（編集文責 文書担当 宮本英利）